

IV—3

盛岡市における観光レクリエーションパーソントリップ調査について

岩手大学工学部 正 員 安藤 昭
 岩手大学工学部 正 員 赤谷 隆一
 岩手大学工学部 ○学生員 外下 邦彦

1. はじめに

東北地方の都市は観光レクリエーションという視点からの街づくりがなされていないように思われる。

観光客の動態についてみても、例えば広域観光の動態調査は毎年行なわれてきているものの、都市内の観光レクリエーション施設間の動態に関する調査はきわめて少ない。

本研究は盛岡市(小岩井農場を含む)を対象として観光施設相互間の観光レクリエーション行動を探索し、その問題点を探ることを目的としている。

2. 調査の方法

今回の観光レクリエーションパーソントリップ調査は、^{1) 2) 3)}旅館、ホテルにおける留め置き回収と、ホテルのロビーでのヒヤリング、主な観光施設9カ所を選んでのヒヤリング調査により行なったものである。留め置き調査は8月1日から9月下旬、ホテルのロビーでのヒヤリング調査は10月上旬から中旬の金・土・日曜日、観光施設でのヒヤリング調査は10月下旬から11月中旬の金・土・日曜日に行ない、この3つの方法で509票回収することができた。

調査の内容は、目的別一人当たり平均トリップ数・性別年齢別平均トリップ数・交通手段別平均トリップ数・施設相互間トリップ数・その他である。

3. 解析結果および考察

目的別一人当たり平均トリップ数を表-1に示す。これを見ると「学習・見学」「観察・観賞・鑑賞」「宿泊施設へ」「娯楽・遊び」のトリップ数が多い。「学習・見学」を目的として訪れる施設としては、子ども科学館・原敬記念館・県立博物館・盛岡手づくり村等で多くを占めている。これらはいずれも最近つくられた施設である。「観察・観賞・鑑賞」では橋本美術館・盛岡市先人記念館・盛岡手づくり村のトリップ数が多くなっている。「娯楽・遊び」のトリップのうち65%を小岩井農場が占めている点注目される。施設別のトリップ数でもいちばん多い小岩井農場は郊外型の観光レクリエーション施設としては盛岡市では最大級のものである。

表-2は性別年齢別平均トリップ数である。全体的に見ると男性よりも女性のトリップ数が多い。これは男性の20～50代はビジネスを兼ねて観光レクリエーションを行ない、女性は観光レクリエーションそのものを目的としてきているという傾向があると考えられる。

表-3は交通手段別平均トリップ数である。自家用車でのトリップ数がきわめて高い。それに次いで徒歩、貸し切りバス、タクシー、鉄道となっている。ここで貸し切りバス、タクシーというのはそれぞれ観光バス、観光タクシーと考えられる。

図-1は主な施設間のトリップ相互関連図である。これは施

表-1 目的別平均トリップ数

	トリップ数	平均トリップ数
スポーツ	5	0.01
ドライブ	15	0.029
ハイキング	6	0.012
釣り・川遊び	1	0.002
散歩・散策	80	0.157
風景をみる	83	0.163
参詣(参拝)	11	0.022
娯楽・遊び	137	0.269
祭り・踊り	17	0.033
観察・観賞・鑑賞	197	0.387
学習・見学	231	0.454
食事	79	0.155
ショッピング	58	0.114
盛岡へ	109	0.214
宿泊施設へ	181	0.354
次の旅行目的地へ	23	0.045
自宅へ	8	0.016
その他	14	0.028
不明	109	0.214

表-2 性別年齢別平均トリップ数

	トリップ数(男)	トリップ数(女)	計
10	2.2	4.375	3.167
20	2.579	2.882	2.701
30	2.509	2.219	2.429
40	2.454	2.778	2.524
50	2.58	2.609	2.589
60	2.188	4.8	2.81
不明	1	3.5	1.909

設間のトリップ数が5以上のものについて、線の太さで表し、黒丸の大きさに着施設トリップ数を表したものである。

図に示されるように、強い結びつきが見られるのは小岩井農場―盛岡手づくり村であった。この2カ所はそれぞれ施設の入り込み数の多い郊外型の観光レクリエーション施設であるためと見られる。現在の盛岡市の観光はこの2カ所が主要なものであることがわかる。また盛岡駅の交通の拠点として利用されているためトリップ数が大きくなっている。先人記念館―原敬記念館、岩山展望台―橋本美術館の施設間トリップが多いが、前者はどちらも「学習・見学」を目的とし、相互の立地場所が近い。後者は橋本美術館が岩山展望台の行き帰りに立ち寄りやすい立地となっているため、観光レクリエーション施設の配置が重要であることがうかがえる。また盛岡八幡宮―盛岡駅間、盛岡八幡宮―橋本美術館間、中央公民館―岩山展望台間、岩山展望台―橋本美術館間の利用交通手段は貸し切りバス（観光バス）が大きな部分を占めている。この図のなかで中央公民館が孤立した形になっている点に注意しなければならない。

表-4は観光レクリエーション施設間の交通環境についてのアンケート調査であげられた主な意見をまとめたものである。「道路が狭くて運転しづらい」「交通が渋滞している」「道路がわかりづらい」など道路の構造・交通・環境に対する不満が多く、次いで「観光施設までの案内」に関する不満があげられている。

以上のことから盛岡市の観光レクリエーション施設間の動態に関して次のような特徴や問題点があることが明らかになった。

①「学習・見学」「観察・観賞・鑑賞」を目的とするトリップ数が多い。②自家用車でのトリップ数が多い。③観光バスや観光タクシーの利用者は、市街地の多数の観光レクリエーション施設を見て回っている。④多数の観光レクリエーション施設と強い結びつきの見られる施設が少ない。⑤観光レクリエーション施設はおよそ市街地型と郊外型に分けることができ、市街地型相互および郊外型相互の観光レクリエーション施設は結びつける必要がある。

4. おわりに

本研究の調査の際御協力頂いた盛岡観光協会、盛岡ホテル協議会、岩手県旅館環境衛生同業組合、つなぎ温泉観光協会、小岩井農場、盛岡手づくり村、県立博物館、子ども科学館、原敬記念館、先人記念館、橋本美術館の皆様へ深く感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) 赤谷隆一, 安藤昭; 観光レクリエーションパーソントリップ調査に関する研究, 土木学会東北支部技術研究発表会講演概要, pp. 242~243, 1982.3
- 2) 安藤昭, 赤谷隆一, 神谷順一; 環境緑地におけるレクリエーション行動の分析, 土木学会第42回年次学術講演会講演概要集4, pp. 474~475, 1987.9
- 3) 高橋清; 地域観光モデルの構築とその適用に関する研究, 北海道大学学位論文, pp. 46~55. 1991.3

表-3 交通手段別平均トリップ数

	トリップ数	平均トリップ数
徒歩	160	0.314
自家用車	579	1.138
路線バス	66	0.13
貸し切りバス	116	0.228
送迎バス	19	0.037
鉄道	107	0.21
オートバイ	2	0.004
タクシー	114	0.224
レンタカー	44	0.086
自転車	8	0.016
その他	4	0.008
不明	107	0.21

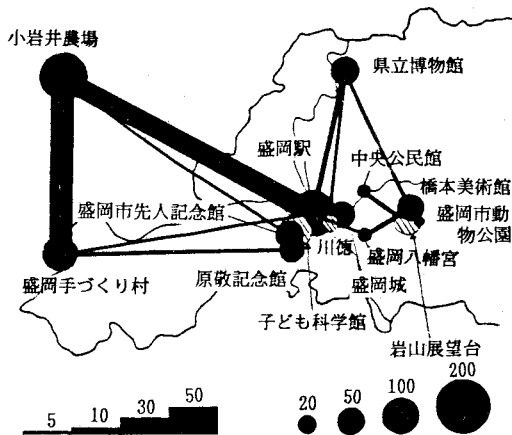


図-1 主な施設間のトリップ相互関連図

表-4 施設間の交通環境に対する主な意見

意見	件数
道路が狭くて運転しづらい	63
交通が渋滞している	62
道路がわかりづらい	59
観光施設等への案内板の備え付け不十分	45
観光施設等への案内板がわかりづらい	39
バスが少ない	22
目的地まで時間がかかる	18
観光案内マップがない	18
駐車場が少ない	17
駐車場の収容台数が少ない	16
観光案内マップが少ない	15
道路が歩きにくい	10
タクシーの利用が不便	10
観光施設がバラバラに離れて位置している	10
電車の数が少ない	8
バスが目的地まで通っていない	6
バスが時間どおりこない	4
目的地が遠い	3